公共交通
メールマガジン

令和元年
５月１０日発行
第６６号

編集：国土交通省
総合政策局公共交通政策部

平素より、当メールマガジンをご愛読いただきありがとうございます。
今回は以下のラインナップでお送りいたします。

第１３回ビジネス講座
「人間中心の視点でのまちなか再生と交通」を開催しました！！

（関東運輸局）

「地域公共交通活性化セミナーin 上越」を開催しました

（北陸信越運輸局）

MaaS（マース）について、先進的な取組を募集します！

（総合政策局 公共交通政策部 交通計画課）

６月６日（木）に「公共交通マーケティング研究会 第３回例会」が開催されます。

＜掲示板＞

☆ 地域公共交通支援センターについて
☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」について

第１３回ビジネス講座
「人間中心の視点でのまちなか再生と交通」を開催しました！！
（関東運輸局）

関東運輸局交通政策部では、2017 年 10 月より「関東運輸局ビジネス講座」と銘打ち、公共交通・物流・バリアフリー・観光等を主なテーマに外部より講師を招いた公開講座を開催しています。

通算 13 回目となる今回は、2 月 22 日（金）に「人間中心の視点でのまちなか再生と交通」と題し、株式会社 日建設計総合研究所　上席研究員　エリアマネジメントグループ　グループマネージャー 西尾京介　氏にご講演いただきました。

株式会社 日建設計総合研究所　エリアマネジメントグループでは、ポテンシャルは高いものの、低利用な都市の空間資源を発掘し、その場所独自のソリューションを導くことを重点テーマにしています。その中で今回の講師でいらっしゃる西尾氏は、中心市街地活性化やまちなか再生、公共空間の利活用や価値向上をテーマに国や自治体、民間企業等の調査、企画、コンサルティングに従事されています。

講演では、都市の人口密度と自動車利用率及び公共交通利用率との関係性や、市街地面積と人口の推移をグラフで明確に示し、また写真を多用することで、車ではなく、人間中心のまちづくりとはどういうことなのかを感覚的にも分かりやすく説明していただきました。国内・海外の事例も多く紹介していただき、その中でも、商店街を通り過ぎるだけの場所から、居心地の良い空間にすることで滞留時間を延ばすという実験とその効果は大変興味深かったです。今回は情報管理の関係で、残念ながら講座の資料を公開することが出来ませんが、参加者にとっては今後のまちづくりを考える上で大変参考になったのではないかと思います。

【今後のビジネス講座開催予定】

●第 15 回　5 月 17 日（金）　15：00～17：00
「視覚障害者の安全な歩行のために」
～盲導犬歩行と白杖歩行から見える社会の課題～
講師：公益財団法人　日本盲導犬協会　神奈川訓練センター　センター長　山口　義之　氏

●第 16 回　7 月 3 日（水）　15：00～17：00
「観光振興とキャッシュレス化」
講師：鎌倉商工会議所　専務理事　波多辺　弘三　氏

詳細及び参加申込みのご案内につきましては、関東運輸局ホームページに掲載しておりますので、ご覧下さい。

＜関東運輸局　ビジネス講座 URL＞
http://wwwtb.mlit.go.jp/kanto/koutuu_seisaku/business/index.html

※定員になり次第募集を締め切らせていただきますので、早めのお申込みをお願いします。

～「地域公共交通活性化セミナーin上越」を開催しました　～
（北陸信越運輸局）

２月２８日（木）に、新潟県上越市で、「地域公共交通活性化セミナーin上越」を開催し、学識経験者からの講話や自治体交通政策担当者からの事例発表を実施しましたので、その概要を以下に紹介致します。

１．基調講演　長岡技術科学大学大学院教授：佐野　可寸志　氏

「持続可能な地域公共交通ネットワークの再構築に向けて」と題し、運行の効率化の観点から、効率化指標としての費用便益比（事業収支だけではなく、公共交通の利用価値も加味した指標）に関しての考え方や、タクシーの配車の最適化による運行の効率化の可能性、新発田市赤谷地区での地域の助け合いによる運行の取り組みについて、具体的な事例も交えつつ、ご講演をしていただきました。

また、「夢のような話かもしれませんが」と前置きされた上で、鉄道在来線を改良し、最高200Km/hで走行可能とする「日本海中速新幹線」の展望について紹介いただきました。

２．事例紹介①「輪島における地方創生の取組みと電動小型低速車「WA-MO」の位置づけ」

輪島商工会議所専務理事：坂下　利久　氏

輪島商工会議所からは、「WA-MO」（ゴルフカートにミラーや方向指示器などを備えつけ、軽自動車のナンバーを取得した車両）を活用した移動手段を提供する取り組みについて紹介いただきました。

「WA-MO」はグリーンスローモビリティ（電動で、時速20km未満で公道を走る４人乗り以上の乗り物）の一種で、ドアがないため、ベンチに腰掛けるような感覚で気軽に乗ることができます。気軽に利用できる移動手段を提供することで、人口減少・高齢化が進んでいる輪島市の活性化を図っているとのことです。現在、電磁誘導線を用いた自動運転の実証実験も行われており、レベル2を経て、最終的には完全自動運転の導入を目指していくとのことです。

なお、現在、「WA-MO」は平日の10：00～15：00間で運行しており、無料で乗車体験できますので、興味を持たれた方は足を運んでみてはいかがでしょうか。

※自動運転レベル２：部分的に運転を自動化するもので、システムが縦方向及び横方向の車両運動制御のサブタスクを限定領域内にて実行する。

３．事例紹介②「上越市の地域公共交通の取組」

上越市企画政策部新幹線・交通政策課長：佐藤　正明　氏

上越市からは、地域公共交通活性化再生法上の地域公共交通網形成計画に基づく公共交通の再編の取り組み、利用促進の取り組み等について紹介いただきました。

バス路線の再編においては、商業施設への乗入れ、重複路線の解消、デマンド運行への切替えなど、利便性や効率性の向上を図るべく計画を見直し、実施しているものの、なかなかバスの利用が想定通りにはいかない、といった話がありました。

今後も、路線毎の細かい分析や、地域住民との意見交換などを行いながら、一層の利用促進を進めていく旨の説明がありました。

４．事例紹介③「『あさひまちバス』の概要について」

朝日町　前企画調整課長：小川　洋道　氏

富山県朝日町からは町と大学の共同で開始した「あさひまちバス」の取組みについて紹介いただきました。当初、大学の社会実験として平成２４年１２月に始まり、それまで少なかったバスの運行本数を大幅に増加させ、また、GPSを利用したバスロケーションシステムや、運行情報を表示するデジタルサイネージを導入し、利便性を高める等の取り組みを行いました。これらの取組みにより、６４ヶ月連続で対前年同月の１日あたり利用者数を上回るという成果を上げている旨の説明がありました。

セミナーの様子

「WA-MO」

今回セミナーにおいて講演等いただいた資料につきましては、当局ＨＰ上に掲載しておりますので、是非ご覧下さい。

http://wwwtb.mlit.go.jp/hokushin/hrt54/com_policy/H310228jyouetusemina.html

セミナーにご参加いただいた皆様、準備等にご協力いただいた皆様、大変ありがとうございました。

MaaS（マース）について、先進的な取組を募集します！

（総合政策局 公共交通政策部 交通計画課）

皆さま、十連休はいかがお過ごしでしたでしょうか。帰省をしたという方もいらっしゃれば、せっかくの長い休みを利用して、海外を訪れたという方もいらっしゃるかと思います。新幹線や飛行機を検索したり、予約したりするときに、もっと便利になればいいなという思いを持たれた方も多いのではないでしょうか。それの手助けをするMaaS（マース。Mobility as a Serviceの略称。詳しくはメールマガジン第63号（※１）と第64号（※２）をご覧ください！）等について、先進的な取組を募集します！

※１　メールマガジン第63号　http://www.mlit.go.jp/common/001267676.pdf

※２　メールマガジン第64号　http://www.mlit.go.jp/common/001271455.pdf

MaaSについては、昨年３月14日に「都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会」の中間とりまとめを行い、今後の方向性が示されたところです（詳細は「都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会」で検索ください！）が、2019年は、それをいよいよ実現に移す年です。中間とりまとめの考えを踏まえ、都市部だけではなく、地方部も、住民だけではなく観光客も訪れる観光地も、ということで、日本版MaaSの実現に向けて、全国各地での取組に対して、国土交通省としても支援をしていきたいと考えております。

国土交通省

本文へ　文字サイズ変更　標準　拡大　音声読み上げ・ルビ振り　English　検索　検索方法　サイトマップ

ホーム　国土交通省について　報道・広報　政策・法令・予算　オープンデータ　お問い合わせ・申請

報道・広報

ホーム > 報道・広報 > 報道発表資料 > MaaS等の新たなモビリティサービスの地域モデル構築を支援！
～本日より5月29日まで新モビリティサービス推進事業の公募をします～

MaaS等の新たなモビリティサービスの地域モデル構築を支援！
～本日より5月29日まで新モビリティサービス推進事業の公募をします～

平成31年4月18日

国土交通省は、地域の交通課題解決に向けたモデル構築を推進するため、地域の協議会、地方公共団体、民間事業者が実施する、複数の交通事業者が参画又は交通事業者と他分野のサービスが連携したMaaSの実証実験を支援します。

○ 国土交通省では、全国各地のMaaS等新たなモビリティサービスの実証実験を支援し、地域の交通課題解決に向けたモデル構築を推進するため、「新モビリティサービス推進事業」を公募します。
○ 選定された事業に対し、本事業により実証実験への支援をするとともに、経済産業省との共同事業であるスマートモビリティチャレンジをはじめ、各種支援策との連携をすることで、重点的な支援も行います。（別紙1参照）
○ 今後とも、関係省庁と連携を図りつつ、MaaS等の新たなモビリティサービスを推進してまいります。

「MaaS 等の新たなモビリティサービスの地域モデル構築を支援！」で検索いただくか、アドレスバーに「 https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12_hh_000142.html 」を入力してください。

詳細は上のホームページに譲りますが、重要な日付として公募の締切が【５月２９日（水）１７時必着】ですので、十連休明け早々ではありますが、ちょっと覗いていただければと思います。

令和元年はMaaS元年。次の世代のモビリティを形作る取組をお待ちしております！

６月６日（木）に「公共交通マーケティング研究会 第３回例会」が開催されます。

◆「公共交通マーケティング研究会」からのご案内です。◆

「マーケティングが公共交通を救う‼」をテーマに発足した本研究会、3 回目の例会は、来る 6 月 6 日（木）午後、東京大学生産技術研究所（駒場第 2 キャンパス）にて開催されることが決まりました。

マーケティングとは、＜「ターゲットを定め」「適切な商品を」「適切な方法で」提供する＞こと。ではその考え方を公共交通に当てはめると、ターゲットは誰で、何を、どんな風に提供することなのか。

公共交通に携わる皆様で、具体的な事例を取り上げて議論いただきます。

○　公共交通マーケティング研究会 第３回例会「実践！公共交通のマーケティング」

■　開催日

2019 年 6 月 6 日（木）13:30（開場 13:00）～17:30

■　場所

東京大学 駒場第 2 キャンパス 生産技術研究所 An 棟 3 階 大会議室

東京都目黒区駒場 4-6-1（小田急線東北沢駅、京王井の頭線駒場東大前駅などから徒歩約 8 分）

■　参加費

3,000 円

※研修会終了後、近隣にて懇親会を開催いたします。会費は 4,000 円程度の予定です。

■　主催

公共交通マーケティング研究会（https://trans-market.jimdofree.com/）

＜プログラム（予定）＞

・ケーススタディ「20 のマーケティング用語で読み解く、高速バス成長の歴史」
　高速バスマーケティング研究所代表　成定竜一（本研究会幹事）
・手法紹介「マス・メディアの活用法」
　モビリティ・ジャーナリスト　楠田悦子（本研究会幹事）
・手法紹介「SNS の活用法」
　ヴァル研究所　諸星賢治（本研究会幹事）
・ワークショップ「実践！自社・自営業所路線のマーケティング」

＜参加を期待する方＞

「利用者を一人でも増やすには？」を考える役割の方
　・バス事業者の営業、企画担当者
　・自治体の公共交通担当者、など
　お申し込み多数の場合、事前に選抜させていただきます。詳細は申込み画面にてご確認ください

＜詳細・お申込み＞

詳細とお申込みについては以下ＵＲＬよりお願いいたします。

https://transmarket-forum-3rd.peatix.com/

＜　掲　示　板　＞

☆　地域公共交通支援センター

公共交通政策部では、市町村をはじめとする各地域の関係者が、地域公共交通の確保・維持に取り組む際に有効に活用いただくため、全国各地における様々な先進事例（約３００事例）を蓄積している「地域公共交通支援センター」を運用しております。

「地域公共交通支援センター」は、地域、人口、交通モード等により、先進事例を検索することも可能となっております。是非ご活用下さい。

＜地域公共交通支援センター＞　http://koutsu-shien-center.jp/index.html

☆　公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」

公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」（以下「キャラクター」という。）は、公共交通の利用促進について、より効果的な広報・啓発を行うことを目的としております。

キャラクターの使用を希望される場合、地方運輸局交通政策部交通企画課までお問い合わせ下さい。申請手続きについてご案内致します。

なお、「地域公共交通支援センター」においても、キャラクターの申請手続き、使用方法、ＦＡＱをご案内しております。

公共交通利用促進キャラクター　のりたろう

大好きな公共交通機関で働くことを夢見ていたが、ネコでは単独で乗り降りができないことから一念発起。自らが新たなハイブリッド公共交通機関に進化することで夢を実現し、現在は利用促進ＰＲの先頭に立って活動している。

駅長を務めるなど活躍中の仲間達を同じネコとして尊敬しており、いつか会って公共交通について熱く語り合いたいと思っている。

- 移動手段は「ネコ足歩行」
- 自由に移動できるが、疲れてしまうので 100 歩ごとに休憩が必要
- 乗車可能人数は運転士（のりたろう本人）を含めて１名のみ！

読者の皆様からのご要望や全国に共有したい情報等がございましたら、以下の【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【お問い合わせ先】
国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課　梅澤
〒100-8918
東京都千代田区霞が関２－１－３（中央合同庁舎３号館３階）
TEL：03-5253-8275（直通）
FAX：03-5253-1513
E-mail: koutsukeikaku_joho@mlit.go.jp

★国土交通省ＨＰ（情報発信のページ）
http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000039.html